

全特協 会報

「校内支援体制の充実に向けて」

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会

会長 大関 浩仁



第61回全国研究協議会兵庫大会は、令和6年8月1日に兵庫県姫路市の「アクリエひめじ」で対面開催し、盛会のうちに終わりました。昨年同様に、従来の2日間日程を1日で短縮開催する中でしたが、全国各地より参集した会員による協議場面では、各地の情報や意見が活発に交わされており、とても実りが多い大会となりました。本大会の成功は、兵庫県教育委員会、姫路市教育委員会、兵庫県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会の皆様方の御尽力によるものです。厚く御礼を申し上げます。当日の開会行事には文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 生方裕 様からの祝辞に続き、兵庫県教育長 藤原俊平 様、姫路市長 清元秀泰 様、姫路市教育長 久保田智子 様にも御登壇いただきました。講演の関西国際大学 教育学部長 中尾繁樹 先生による「特別支援

教育の視点を踏まえた学校づくり」からは、発達障害を含む障害のある児童生徒への支援体制の充実に役立つ多くの学びを得ることができました。そして、会場に参集した会員は3分科会に分かれ、6つの提案について協議を進めることを通じて、各地における学校経営上の工夫や有益な情報を共有し、役立てることのできる貴重な機会となりました。

つぎに、8月9日に開催されました中央教育審議会初等中等教育分科会(第145回)の報告です。審議会では、議題の一つとして「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について(答申案)」に関する意見が交わされました。国が6月に実施した意見募集には、総数18,354件の声が寄せられ、必要な修正等を加えた答申が整えられる流れとなっています。最終的な答申において、特別な支援を必要とする児童生徒など、様々な実態に対応すべきことが示されるとともに特別支援教育コーディネーターの処遇改善などが明示されることによって、今後の施策に繋がっていくことを期待しています。これまでも、全特協を代表して出席する委員として、特別な配慮を要する児童生徒が増加している実態を踏まえての具体的な対応を求めてまいりましたが、会員の皆様の声を引き続き積極的に国へ届けてまいります。

さて、夏季休業期間中には、様々な研究会が全国各地で催され、いくつかの会に私も参加いたしました。ある研究会での「校内支援体制の充実」に向けたグループ討議において、「教育課程に関して特別支援学級担任として管理職に意見を求めたところ、『特別支援教育の経験がなく分からないから先生が考えて』と言われ、一人で困っている」との切実な悩みを聞きました。他の教員からは「本校では、管理職が『一緒に考えよう』と言ってくれるので心強い」との声もありました。例えば、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(NISE)による動画コンテンツなど、様々な役立つ情報があることを管理職が知っておくことで、若手教員の育成や校内支援体制の充実に役立つことと思います。

本協会の諸活動により、特別支援教育に関する校長先生方の情報共有が活発になるとともに、会員各校のさらなる発展をお祈り申し上げます。

第61回 全国研究協議会 兵庫大会

兵庫大会実行委員長 藤田 靖

令和6年8月1日、全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 第61回全国研究協議会兵庫大会を「アクリエひめじ」において開催いたしました。ご来賓の方々をはじめ、全国理事の皆様及び全国各地よりご参集いただきました校長先生方のご理解とご協力を得て、無事に兵庫大会を終えることができました。

また、大会の開会行事・記念講演についてはオンラインで配信する方法を取り入れ、より多くの方々に情報を提供することができました。

心より感謝申し上げますとともに、以下、本大会についてご報告いたします。



【開会行事】

主催者挨拶	全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 会長	大関 浩仁
	第61回 全国研究協議会兵庫大会 実行委員長	藤田 靖
来賓祝辞	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長	生方 裕 様
	兵庫県教育長	藤原 俊平 様
	姫路市長	清元 秀泰 様

*特別支援教育課 生方課長からの通常の学級における個別の支援を要する児童生徒数の増加に伴い、学校教育活動の推進に特別支援教育が重要な役割を果たすことを示していただいた。

*また、藤原教育長からは、第4期「ひょうご教育創造プラン」における、縦・横の連携を重視した特別支援教育の在り方について、清元市長からは、全国各地の学校長が参集し協議する本会の意義についてお話しいただき、参加者の意識をさらに高めていただいた。

【講演】

演題：「特別支援教育の視点を活かした学校づくり」

—発達障害を含む障害のある児童生徒への支援体制の充実を目指して—

講師：関西国際大学 教育学部学部長 大学院人間行動学研究科 教授 中尾繁樹 様

<講演内容抜粋>

1. 今、大変なこと
 - ・コロナの影響
 - ・教育・保育支援
 - ・自然災害
 2. リスクマネジメントの意義
 - ・Crisis（すでに発生した事態）実態がわからないと対応できない。
 - ・リスク Risk（いまだに発生していない危険）実態把握に基づいた指導体制づくりにより未然防止を図る。これから起こるかもしれないことへの対応＝リスクマネジメントが大切。そのためには子どもの特性を知り、どこで成長が止まっているかを見極める必要がある。
 3. 特別支援教育が普及・定着する意義
 - ・いじめや不登校を未然に防止する効果
 - ・教育的ニーズを把握し、それに対応した行動を行うことで、障害の有無に関わらず児童生徒の確かな学力の向上や豊かな心の育成に資する。
 - ・教育水準や教員の専門性の向上
- 以上により、障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう共生社会の実現を目指し、特別支援教育の理念や基本的な考え方が国民全体に共有されることを目指す。
4. 実態把握と理解
 - ・子どもたちの様子を特別支援教育の視点で実態把握をし、どうすればよいのかを考える。



視点1 子どもが示す問題は、家庭と学校と社会という器の中で継続的に起こる。

視点2 「困った子」ではなく「困っている子」と見て、どこで発達が足踏みしているかを見る。

- ・何ができて何ができないか、情報を様々な角度から収集し、整理分析して子どもの実態や全体像を理解する。

5. 二次的障害の防止

二次的障害とは発達障害（一次的障害）そのものではなく、周囲の人たちとの関係の問題から生じてくる様々な心理的問題行動や適応・行動上の問題である。

- ・防止のためには、これまでの学校の枠組み（秩序・黙ってノートに写す・黙って聞く等）に困る子がいることも理解する必要がある。

6. 教員・管理職に期待すること

(1) 管理職の役割とは

- ・学校の中長期目標を立てる ・特別支援教育を特別な教育と考えない ・教員を評価、育成、指導する。
- ・地域との連携協力を図る ・学校を育てる ・専門性を高める ・子どもを知る ・学校を診る。

(2) 教員に求める力

- ・「目でみる」の獲得（子供を適切に観察するための力、知識力をつけることが必要）
 - ・「手でみる」の獲得（指導にかかる感性、授業展開力、実践力）
 - ・「心でみる」の獲得（悩みや困り感に共感できること、子どもととけあい受け入れる、感じる力）
- * 「特別支援教育の視点を活かした学校づくり」について、ほぼ全ての参加者が共感し、管理職としての新たな認識と知見を深める内容であった。

【分科会】

第1分科会 「特別支援教育の校内体制の充実を目指す学校経営」

○京都市立岩倉南小学校長 石田 和三 ○洲本市立由良小学校長 脇田 真澄

第2分科会 「特別支援教育の推進を担う教職員の育成を図る学校経営」

○東近江市立八日市西小学校長 東條 和徳 ○芦屋市立宮川小学校長 浦山 佳代

第3分科会 「関係機関との連携を進め特別支援教育の充実を図る学校経営」

○宮津市立宮津中学校長 岡田 隆幸 ○神戸市立福住小学校長 津田 朋厚

* 実践発表を基に、他都道府県の方と深く協議したり、広く情報交換したりする機会となった。

【大会参加アンケートより】

○大会運営について

- ・1会場でしかも素晴らしい施設だったので、ゆったりと快適に学ぶことができました。
- ・暑い中会場まで道案内をしていただき、細部まで行き届いた運営でとても助かりました。
- ・遠方からの参加者にとっては2日開催の方が時間的に余裕があるが、2日間となると開催県にかなりの負担がかかるのでどちらとも言い難いです。

○講演・分科会について

- ・開会行事や講演、分科会ともに有意義な内容で、今後の実践に繋がるものとなりました。
- ・中尾先生のお話から、特別支援教育は特別なものではなく、子どもたち一人一人のニーズに応える人権教育であると再確認し、分科会においても、教育委員会、関係機関、医療機関、学校現場が手を取り合って、子どもを真ん中に置いて教育する大切さが分かりました。
- ・分科会において、もっと他県の先生方と協議する時間がほしかったです。

令和6年度 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
第39回 関東甲信越地区研究協議会 埼玉大会

1. 研究主題 学校における一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
～主体と連携 当事者の声に耳を傾ける～
2. 期 日 令和6年11月22日(金) 13:00～16:30
3. 会 場 埼玉県さいたま市「RaiBoc Hall」(市民会館 おおみや)
〒330-0846 さいたま市大宮区大門町2-118 TEL 048-641-6131 FAX 048-641-6133
4. 日 程
- (1) 開会行事 13:00～13:15
主催者あいさつ 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会 会長 大関 浩仁
第39回関東甲信越地区研究協議会埼玉大会 実行委員長 板倉 伸夫
来賓祝辞
- (2) 記念講演 13:15～14:00
演題 「一期一会 ～可能性を信じて支えてくれた人々との出会い～」
講師 医療法人昭友会いづみケアセンター 金子 遼 様
保護者 金子 亜矢子 様
- (3) 実践報告及び指導講評 14:10～16:10
実践発表 1 「南浦和中学校区における小・中連携の実践」 さいたま市立文蔵小学校長 渡邊 勝利
実践発表 2 「本人の夢を叶える中・高連携の実践」 熊谷市立妻沼東中学校長 森 香明
指導講評 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター
上席総括研究員兼センター長 長江 清和 様
- (4) 閉会行事 16:15～16:30
主催者あいさつ
次期開催地区代表者あいさつ

5. その他

- ・本研究協議会は、参集とオンラインのハイブリット型で開催いたします。
- ・埼玉県外からの参加は、オンラインとなります。
- ・大会参加は、10月22日(火)までに参加登録をお願いします。
(大会の最終案内は、全特協のホームページにも掲載しています。)



QRコード

【埼玉大会事務局】

埼玉県越谷市立平方小学校 校長 古橋 立哉

〒343-0002 埼玉県越谷市平方2748 TEL 048-976-1586 FAX048-976-1585

Email : hirakata_e@edu.city.koshigaya.saitama.jp

第3回 全国理事研究・研修協議会(滋賀県)開催の御案内

○令和7年1月24日(金) 参集・対面式

- ・会 場 滋賀県立県民交流センター ピアザ淡海 (滋賀県大津市におの浜1丁目1-20)
- ・内 容 ①第3回 全国副会長研修会 9:00～11:20
②全国理事会・ブロック会・顧問参与の会 11:30～12:30
③全国理事研究・研修協議会 13:30～16:10
ア開会行事
イ研究協議
ウ本部説明、諸連絡、閉会行事

☆ 本年度最後の「全国理事研究・研修協議会」となります。御参加をお願いいたします。